

い
ま
風

水曜日

香りを自分で楽しむだけでなく、人をもてなすために使う。アロマ空間デザイナーの深津恵さんは、そんな香りの演出を提案している。夏に向けて、お気に入りの時期、暮らしの中に上手に香りを取り入れたい。

(生活情報部 大森亜紀)

自動車のショールームや飛行機の機内、商業施設にホテルまで。深津さんが働く「アットアロマ」(東京)では、様々な空間の香りをコーディネート

香りで人をもてなす

ナビゲーター

「**粋**」

深津 恵さん

アロマ空間
デザイナー

「どんな人とどう過ごしたいか目的と雰囲気を考えて香りを選んで」と話す深津さん(東京・世田谷区)＝関口寛人撮影

あ

れい

KIREI



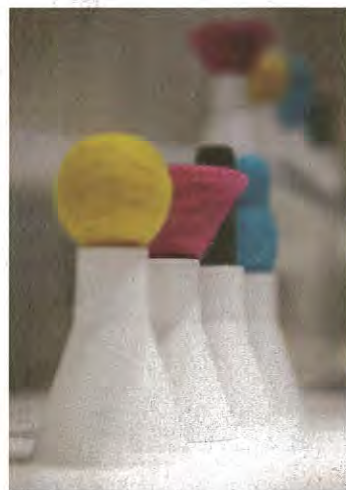
木で作るアロマオイル

深津さんは、国産の木を使ったアロマオイル作りにも取り組んでいる。奈良県の十津川村と共同で取り組んだ香りには、杉の間伐材などを使った。美しい森や山を維持するために必要な間伐を進めるために、香り作りが一役買うという。

誕生したのは、「雲海」「新緑」など、村の風景をイメージした七つの香り。この春に試作品＝写真＝も完成し、イベントなどで紹介している。市販化も検討中だ。



パソコンに取り付けるUSBタイプも。熱で香りが広がる



フェルトを使ったかわいらしい形のディフューザー



スティックをアロマオイルの瓶に挿すタイプのディフューザー

一般的に、合成香料より天然のオイルの方が香りがやわらかく、しつこく残らないため、好き嫌いが出にくいそうだ。強すぎる香りが続くと疲れるため、ほのかに香らせるもの、スポット的に使うものと分け、香りの強弱を心がけたい。「香りには気持ちを切り替えるスイッチの働きもある。オンとオフを考えると使うと暮らしが豊かになります」と深津さんは勧めている。

香り選びに迷ったら、家のインテリアに合わせて選ぶ方法も。和風ならスギやヒバなど木の香りが含まれたもの、モダンな雰囲気なら様々な香りの要素がブレンドされた複雑で奥行きのある香りが合いやすい。

季節感も大事にしたい。夏はミントやユーカリなど爽やかな香り、秋冬はフローラルやスパイスなど包み込むような香りが好まれるという。香り選びに迷ったら、家のインテリアに合わせて選ぶ方法も。和風ならスギやヒバなど木の香りが含まれたもの、モダンな雰囲気なら様々な香りの要素がブレンドされた複雑で奥行きのある香りが合いやすい。

ネットしている。「香りで気持ちが安らいだり、会話が弾んだり。様々な効果に注目して、香りを取り入れる場が増えていきます」と話す。深津さんは、植物などから抽出した天然のアロマオイルを目的や場所に合わせて使っている。広い空間に香りを広げるには「ディフューザー」(噴霧器)を使うと良い。電気や熱でオイルを温めて広げるものや、素焼きの石や木にオイルを染み込ませてゆっくり揮発させるものなど様々な形がある。

ふかつ・めぐみ 1972年、大分県日田市生まれ。キャビンアテンダントとして、航空会社に勤務した後、99年にアロマセラピストの国際ライセンス

を取得。「アットアロマ」取締役でアロマ空間デザイン部マネジャーとして、商業施設やホテルなどの香りの空間演出に携わる。

「靴のにおいが籠もりがちな場所なので清潔感が大事」。ミント系に花や木の香りをブレンドしたさっぱりとした感じのオイルがおすすめです。オイルの入った瓶に木のスティックを挿して、ほのかに香りを広げる形のディフューザーなら、玄関のインテリアにもなる。「音楽に例えるとB



木や素焼きの石にアロマオイルを垂らして使う。穏やかに香りが広がる

肌に映えるネイルカラー

松浦改
暮

ある雨傘をさしに当たるポン、ポに心地よく、そこにも王室のヤッポを生地がピっているか傘自体がなる。持を削りだると、英